

## 農業共済新聞 千葉版

掲載号	1 2 月 2 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 宇賀神七夕子
題名	水田難防除雑草対策 雑草の生態を知って上手に防除を行いましょう	
備考	【表説明】 図1. オモダカ, クログワイ, コウキヤガラの生活環と防除 表1. オモダカ, クログワイ, コウキヤガラに有効な除草剤	

### 【本文】

種子から一斉に発生してくる一年生雑草（ノビエやコナギなど）は、現在主流になっている初中期一発除草剤の1回処理でも防除することができます。しかし、栄養繁殖器官から発生する多年生雑草の発生期間は長く、特にオモダカ、クログワイ、コウキヤガラは防除が難しく、初中期一発除草剤1回だけの処理では防除しきれません。これらの難防除雑草が発生している水田では除草剤の体系処理を行いましょう。

オモダカは代かき後30日前後に発生盛期となり、8月上旬に発生終期となります。防除はベンゾフェナップを含む初期剤と中期剤、後期剤の2～3回の組み合わせで行う必要があります。

クログワイは代かき後70～75日に発生盛期となり、10月下旬まで発生が続きます。ペントキサゾンを含む初期剤により初期発生を抑制し、抑草効果の高い初中期一発剤または中期剤を移植後20日以降に処理し、その後発生してきたものについてはベンタゾンを含む後期剤の液剤によって防除する必要があります。

コウキヤガラは3月中旬から発生を始めます。すでに発生している株は土中に埋没すると枯死するので、代かきは浅水で丁寧に行い、株をしっかりと埋没させます。クミルロンを含む初期剤を散布し、ピラクロニルを含む初中期一発剤またはハロスルフロメチルを含む中期剤を移植後20日以降に散布して発生を抑制し、その後発生してきたものについてはベンタゾンを含む後期剤の液剤によって防除する必要があります。

また、オモダカとクログワイは稲刈り後に塊茎形成が行われるので、稲刈り後早期の耕うんや除草剤による秋季防除で塊茎形成量を減らすことができます。

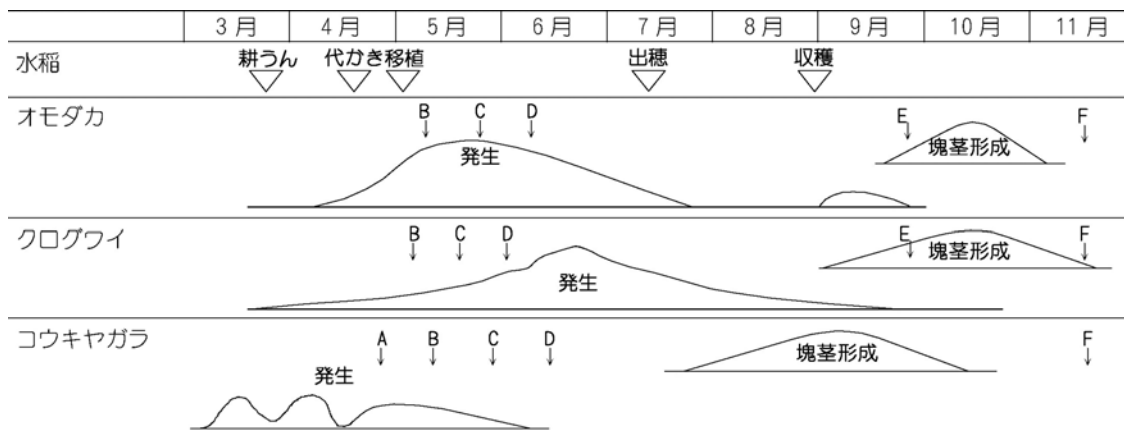


図1. オモダカ, クログワイ, コウキヤガラの生活環と防除

A 代かきによる既発生株の埋没, B 初期除草剤の散布, C 中期除草剤の散布, D 後期除草剤の散布, E 稲刈取り後早期の耕うん又は薬剤防除, F 秋～冬期耕うん(土壌が乾燥するほ場)

表1. オモダカ, クログワイ, コウキヤガラに有効な除草剤

雑草名	初期剤	初中期一発剤	中期剤	後期剤
オモダカ	ユニハーブフロアブルなど		ザーベックスSM1キロ粒剤, ハイカット1キロ粒剤など	バサグラン粒剤または液剤など
クログワイ	草笛フロアブルなど	ゼータワン1キロ粒剤, ピクトリーZ1キロ粒剤など, パッチリ1キロ粒剤,	ザーベックスSM1キロ粒剤, ハイカット1キロ粒剤など	バサグラン液剤など
コウキヤガラ	草笛フロアブルなど	ゼータワン1キロ粒剤, ピクトリーZ2キロ粒剤など	ハイカット1キロ粒剤, サンパチ1キロ粒剤など	バサグラン液剤, グラスジンMナトリウム液剤など